

# 東風見聞録

平成24年1月発行 通巻46号

イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖恵

群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢637-M302

電話・FAX 0278-72-9292

## パタゴニア・エクスペディション・レース2012に再挑戦

チームイーストウインドは来月に開催されるパタゴニアエクスペディションレース(PER)2012に再挑戦します。キャプテンの田中正人は「近年、スピードを求められるアドベンチャーレースが多いなか、これほどまでに冒険的なレースはありません。前回のレースでは自分たちの至らない点をまざまざと感じさせられました。今回はそれを克服し、真のアドベンチャーレーサーになりたいと思います」とリベンジする理由を話しています。今回10周年となるPER。トップ3内を目標にがんばります。

- 【大会名称】 Patagonia Expedition Race 2012
- 【大会公式サイト】 <http://www.patagonianexpeditionrace.com>
- 【開催期間】 2012年2月11日～2月25日(レース期間は2月14日～22日)
- 【実施主体】 Nómadas Outdoor Services
- 【総距離】 700km程度。コースは競技説明(スタート前日)にて発表
- 【レース種目】 マウンテンバイク、トレッキング、シーカヤック、ロープアクティビティ  
(全種目ナビゲーションで進む)
- 【参加チーム】 20チーム
- 【今大会のポイント】 南米最南端のフエゴ島がコースとなる。



正直、またあの地に行くのかと思うと緊張感が高まります。自然の厳しさもさることながら、ナビゲーションをそつなくこなすことが最重要課題であり、かつ最も緊張を強いられる原因です。陽希と強力なタッグを組み、チームがさらに一丸となることを目指します。チームワークの中にも厳しさを求めることになると思います。そうした意味でも、チームイーストウインドは更なる高みを目指したいと思います。

田中正人



今回は完走は勿論のこと3位以上という結果を意識して挑みたいと思います。チームメイトへの信頼、3年連続の出場となるレースでの過去の経験、応援して下さる方々の期待、それらがレースでの私の力となります。良い報告が出来るように全力を尽くします。

倉田文裕



今回で三回目の挑戦になります。初心を忘れず、今までの経験やチームワークを活かして、挑戦者として地球の裏側まで戦いに行ってきます！応援よろしくお祈りします。

田中陽希



メンバー同士の信頼関係も深まりチームにはこれまで以上の一体感があります。パタゴニアでは予測不可能な困難が次から次へと降り掛かってきます。皆様からの応援を力にさせて頂き、どんな困難でも乗り越え3位以内で完走し、今回も大きな笑顔で結果報告が出来るよう精一杯頑張りたいと思います。応援宜しくお願い致します。

和木香織利

レースは参加費や渡航費だけではなく、大自然の中で生命を支える高性能装備、食料一式、そして何より飛行機に乗る際の荷物の超過料金など、多額の準備金が必要なため、金銭面はまだ不十分な状況です。

世界に挑み続けるチームイーストウインドへのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

### イーストウインドへのご支援金 振込先

郵便振替 口座番号 00190-0-296885 口座名称 イーストウインドプロダクション

## 活動報告

### アドベンチャーレース世界選手権(タスマニア)報告会

平成23年12月23日(祝・金)国立オリンピックセンター(代々木)にてアドベンチャーレース世界選手権の参戦報告会を開催いたしました。

寒い中、大勢の方にお越しいただき、心から感謝申し上げます。今回はレース中にショートムービー(動画)を多く撮ったので、臨場感のある報告会を楽しんでもらえたと思います。今後もアドベンチャーレースの魅力伝えていくように頑張ります。



### 上毛新聞『視点・オピニオン21』

平成23年12月30日付の上毛新聞『視点・オピニオン21』でイーストウインドのマネージャー竹内靖恵のオピニオンが掲載されました。

チームのマネージャーとして世界に選手を送り出す一方、妻として田中正人を支えながら、一児の母として子育て真っ最中。「アドベンチャーレースから学んだ精神を次世代に伝えていきたい」と執筆しました。これから1年『視点・オピニオン21』を約60名で担当していきます。次の竹内の掲載は2月の予定。12月30日付 オピニオンはこちら

<http://www.jomo-news.co.jp/news/kikaku/opinion2011/opinion20111230.html>

### 立正大学にて田中正人が講義

スポーツ運動学者・山西哲郎先生のご紹介により立正大学熊谷キャンパスにて「アドベンチャーレースについて」という題目で田中正人が講義をしました。

講義時間は90分で映像を交えて「ARの紹介」と、実体験から基づいた「チームワークの必要性」を話しました。

### パタゴニア・エクスペディション・レース出場 記者会見

1月19日(木)ビクトリノックス・ジャパン様にてパタゴニア・エクスペディション・レースに向けた記者会見があり、レース参戦者として田中陽希、倉田文裕、和木香織利がご挨拶をさせていただきました。

ご来場くださった皆様、どうもありがとうございました。そしてこのような貴重な機会を開催してくださったビクトリノックス・ジャパン様に感謝申し上げます。チームも良い刺激となり、更に気持ちが引き締められました。

## 募集

### ナビゲーションたっぷり実践講習会 初・中級編

ナビゲーション初級講習会。実際に山を歩きながら講習を致します。トレイルランや山歩きを始めただばかりの人は遭難対策としてナビゲーション技術を身に付けておくことをおすすめします。

【開催日】 2012年3月11日(日)

【開催地】 埼玉県奥武蔵(約8キロ)

【講習レベル】 地図の見方、等高線と地形、コンパスの使い方などの基本的知識・技術の習得

【講師】 田中正人(アドベンチャーレーサー チームイーストウインド代表)

【アシスタント】 早川秀人(アドベンチャーレーシングクラブKOCGi所属)

【詳細・お申込み】 日本アドベンチャーレース協会 <http://www.adventure-race.net/>



### 全日本スノーシューイング・グランプリシリーズ 水上大会

【開催日】 2012年3月17日(土)

【開催地】 水上高原スキーリゾート

【競技内容】 スノーシューを用いた雪上ランニングレース

【競技種目】 (1) 男子5kmの部 (2) 女子5kmの部 (3) 男子15kmの部 (4) 女子15kmの部

【参加費】 5km 4,000円 15km 7,000円 スノーシューレンタル(希望者のみ)1,000円

※公共交通機関でお越しの場合上毛高原駅からはレース当日の朝8時頃に臨時送迎バスが出ます。乗車人数に限りがありますので必ず事前に予約を入れてください。

【詳細・お申込み】 全日本スノーシューイング・グランプリシリーズ水上大会公式サイト

<http://www.east-wind.jp/snowshoe/minakami/>

# 東風吹かば...

田中正人が会社務めを辞めてアドベンチャーレーサーに転向して今年で16年目。今までに多くの方に出会い、そのたびにあらゆる方面で多くの事を学ばせて頂いています。ここではそんな面白い方々を竹内靖恵がご紹介していきます。



## 児童虐待撲滅で行脚 齋藤 浩太郎 (41)

後編

親の離婚、虐待、暴れ放題の中学時代。やがて極道の世界に足を踏み入れた齋藤浩太郎氏は命の危険に直面し、真面目に生きる事を決意。七転八倒をしながらシャバに復帰。今は会社勤めをしながら、その壮絶な自身の経験を活かしてボランティアで子どもたちの心の相談にのる。壮絶な齋藤氏(通称サイコー)の人生を紹介。今回はその後編。

### 窓口は腹をくくらないといけない仕事です

竹内 「前編では私自身も親として良いお話を聞かせていただきました。今回は今現在のお仕事について伺います。今のお仕事は何ですか？」

齋藤 「会社員です。パソコンの修理窓口をやっています」

竹内 「修理窓口と言うと、最初にお客様の苦情を聞く役目ですか？」

齋藤 「そうです」

竹内 「修理を依頼する側にもいろんな人がいるだろうけど、怒鳴る人だっているんじゃないですか？」

齋藤 「いますよ。修理窓口はお客様のパソコンの不具合を最初に聞く立場にありますからね。結構ストレスがかかります。お客様の求める対応ができないと『スタッフの対応が悪い』とか、『お前なんかクビにしてやる!』とも言われることがあります」

竹内 「そんな時、『作ったのはオレじゃない』と、思ってしまったりしませんか？」

齋藤 「(苦笑して)パソコンひとつにしても、デザインする人、部品を製作する人、それを組み立てる人、磨く人、梱包する人、販売する人がいます。その後ろには僕のように修理の窓口になる人、そして修理する人がいるんです。僕の役目は窓口ですから、苦情を言われるところなんです」

竹内 「お客様から『お前なんかクビにしてやる』なんて言われた時はどのように対応をするんですか？」

齋藤 「『どうぞ。僕がクビになってお客様の気が済むなら』とお答えします。そうすると、ほとんどのお客様も『いや、そこまで...』と少し気持ちが落ち着くんですけど(笑)。僕は常にクビを覚悟してるんです。窓口って腹をくくらないといけない仕事なんです」

### 俺が責任を取るから思ったようにやれ

竹内 「同じ部署でも全員腹をくくっているという訳ではないのでは？」

齋藤 「そうですね。温度差はあると思います。お客様に『お前じゃダメだから上司を出せ』と言われると、すぐに上司に代わってしまうとか。結局、上司だって同じ事しか説明できないんですけどね。自分で対応できずに他の人に代わるのは責任逃れなんです。『窓口は自由がない』とボヤク人もいますが、責任が取れないから自由がないと感じるんです。でも本当に自由になることは責任を取る事なんです。これが30歳にしてやっと分かりました」

竹内 「後輩たちは、かなりコウちゃん(齋藤さん)を頼りにしてるんじゃないですか？」

齋藤 「いや〜どうなんですかね。だって後輩たちの多くは大学を出るのに自分は中卒なんです。学歴がないんだから、何かあったらみなさん、助けてくださいって僕が思ってるんですけどね。でもみんな僕に聞いてくる。『中卒の俺に聞いてどうすんだ?』って思いますよ(笑)」

竹内 「そんな後輩たちにどうやってアドバイスをしてるんですか？」

齋藤 「『何かあったら俺が責任取るから思うようにやれ』って。そうしないといつまで経っても責任感もないし、成長もしませんから」

竹内 「互いの信用がないとできないですね。しかもそんな風に見える先輩がいると心強くてやる気になります」

### 大人になると褒められることが少なくなる

齋藤 「大人になると叱ることはするけれど褒めることは少なくなります。僕の部署はクレームを受けるところなので叱られるのが普通で『ありがとう』とは言われないんです」

竹内 「そうですね。人に感謝される仕事をしたいって言う人、多いですからね」

齋藤 「そうですね。だから僕はお礼を言うことを心がけています。先日、朝にバスに乗ったんです。その運転手さんが素晴らしくて、乗車するお客さんひとりひとり『おはようございます』と、下車する時は『行ってらっしゃい。お気を付けて』と声をかける。この姿に感動しちゃって。その運転手さんの名前を控えて、そのバス会社に手紙を送ったんです。『〇〇運転手さんの姿に感動しました』って。そしたらすぐにバス会社の方から電話があって『とても励みになりました。〇〇にも伝えておきます。本当にありがとうございました』と言ってくれました。うれしかったですね」

竹内 「その場で思っても、そうやってちゃんと声(手紙)にするといい事はとて大切なんですね」

齋藤 「社内でも同じです。現場はまとまっているんです。ですが現場を知らないトップが数字だけを押し付けてきます。現場があるから会社が成り立っているのに、売上だけを気にして現場を無視してる。たまに現場の人たちと酒を飲むんですが、『数字を追うのはいいけれど、でも現場に来た時に、ああしろ、こうしろと指示するだけじゃなくて、一言でも『ご苦労さん』とか『ありがとう』とか言ってくれるとなあ...』って言っています。そして今の会社にいるのは信頼できる長がいるから。この長が辞めれば自分も辞めると言う。会社に魅力があるのではなく、人に魅力があるからやっていけるんです」

### 立ち止まらずに動き続けること

竹内 「過去はやクザの世界にもいましたよね。それをすべてさらけ出すのには、かなりの勇気が要ったと思うのですが」

齋藤 「いいえ、すべて本当のことですから。それよりも自分の経験をどうにか活かそうと思う気持ちの方が強かったですね」

竹内 「様々な事を経験してきたコウちゃんから、今の子供たちや若者に伝えたいことはありますか？」

齋藤 「何をするにしても壁にぶつかる時があります。でもそこで止まったらすべてが終わる。何でもいからやってみること。動けば結果が出ます。その結果が悪ければ他の事を試してみればいい。とにかく立ち止まらずに動き続けてください」

竹内 「地獄のような経験をしてきたコウちゃんだからこそ、人にとことん優しく、人の痛みも分かる。そんな素晴らしいコウちゃんとの出会いに、今日は私から『ありがとう』」

#### 齋藤 浩太郎 (さいとう こうたろう)

1970年新潟生まれ。会社員(コンピューター修理窓口)。虐待を受けた自身の経験から子ども相談を開設。2003年に58日間かけて神奈川から大分までを虐待撲滅行脚した。

ブログ「僕のふり見て自分のふり直そう！」

<http://plaza.rakuten.co.jp/yesmust/>